

令和2年度第2回特別展

加藤倉吉

最も多くの「顔」を
彫り上げた男



2021.1.13(水) - 5.9(日)

独立行政法人国立印刷局
お札と切手の博物館

【住所】〒114-0002 東京都北区王子1-6-1 【開館時間】9:30~17:00
【電話】03-5390-5194 【URL】<https://www.npb.go.jp/ja/museum/> 【休館日】月曜日、2/14(日)

【アクセス】
JR京浜東北線「王子駅」(中央口) 下車徒歩3分
東京メトロ南北線「王子駅」(1番出口) 下車徒歩3分
都電荒川線(東京さくらトラム)「王子駅前」 下車徒歩3分

入場無料
Admission Free

やむを得ず会期や開館時間を変更する場合があります。
詳しくはホームページをご覧ください。
電話にてお問い合わせください。





倉吉が初めて彫刻したお札の肖像・和氣清麻呂
日本銀行兌換券 丙 10円 昭和5(1930)年



倉吉が手掛けた「肖像」入り切手

(左から)「乃木希典」	第1次昭和切手	2銭	昭和12(1937)年
「少年航空兵」	第2次昭和切手	15銭	昭和17(1942)年
「野口英世」	文化人切手	8円	昭和24(1949)年

加藤倉吉

最も多くの「顔」を彫り上げた男

加藤倉吉は、大正から昭和にかけて、お札や切手の原版彫刻に腕を振るった印刷局の工芸官(専門職員)です。

戦時中の印刷局では、日本国内のお札や切手、諸証券だけでなく、戦地で使用するための多種多様なお札や切手、諸証券等を製造する任務がありました。この時、倉吉は確かな技術と驚異的なスピードで膨大な数の原版彫刻をこなし、時代の要請に応えました。一方、在職中から退職後まで、さまざまな製版技法や表現方法を研究、模索し、同時代の政治家や文化人等の肖像画、風景画等の数多くの作品を残しています。

本展では、倉吉本人から寄贈を受けた資料を選び、戦時の緊急増産体制を支えた倉吉の技と作品の妙をご紹介します。国の「顔」たるお札や切手、諸証券等の製品とともに、印刷局伝統の彫刻技術が生み出すモノクロームの美をぜひご鑑賞ください。



在職中に制作した肖像画

(左から)凹版画「マクドナルド」 昭和7(1932)年
凹版画「子爵齋藤実像」 昭和9(1934)年



退職後に彫刻した肖像画、初日カバー(封筒)のデザイン

(左)凹版画「ケネディ」 昭和41(1966)年
(右上)初日カバー「皇太子殿下御成婚記念」 昭和34(1959)年
(右下)初日カバー「尾崎記念会館竣工記念」 昭和35(1960)年



【新型コロナウイルス感染拡大防止のために】

- 入館に際しては以下のご協力をお願いします。
- ・入館時アンケートの記入
 - ・体温の計測
 - ・マスクの着用
 - ・手指の消毒
 - ・対人距離の確保
 - ・会話を控えること
 - ・展示品、展示ケース等に触れないこと

また、当面の間、団体の予約受付、手を触れる体験設備等の使用を休止します。



独立行政法人国立印刷局

お札と切手の博物館